

香川県埋蔵文化財センター年報

平成 29 年度

2018. 12

香川県埋蔵文化財センター

はじめに

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和62年11月1日に設置されました。

平成29年度は、国道11号大内白鳥バイパス建設、国道438号道路改築、県道改築工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査及び過年度発掘調査の整理、報告書刊行をはじめ、出土品の保管、讃岐国府跡探索事業などを実施しました。そして、これらの調査や整理によって得られた多くの成果をもとに、展示や広報誌の刊行、体験講座、考古学講座などの普及啓発業務を行い、埋蔵文化財の保護意識の向上に努めました。

本書は、平成29年度に実施した事業の内容をまとめたものです。本書が地域の歴史や文化の理解への一助になれば幸いです。

最後になりましたが、ご指導、ご協力をいただいた関係各位にお礼を申し上げますとともに、今後とも当センターの活動に皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年12月

香川県埋蔵文化財センター
所長 西岡 達哉

目 次

はじめに	
I 組織・施設・決算	1
1 香川県埋蔵文化財センターの組織	1
2 施設の概要	2
3 決算の状況	3
II 事業概要	4
1 埋蔵文化財調査事業	4
三殿北遺跡	6
内間遺跡	9
横井南原遺跡	12
名遺跡	15
2 普及・啓発事業	18
(1) 展示	18
(2) 現地説明会・地元説明会	18
(3) 講師の派遣	18
(4) 子どもミュージアム	19
(5) 発掘体験講座	19
(6) 考古学講座	19
(7) 文化ボランティア活動	20
(8) 新聞記事掲載	20
(9) 資料の貸出・利用	20
(10) 職場体験学習・インターンシップ	20
(11) 刊行物	20
(12) ホームページ	20
(13) 資料の寄贈	20
(14) 収蔵資材の指定	20
3 讃岐国府跡探索事業	21
III 讃岐国府跡第35次調査成果の概要	23

挿 図 目 次

第1図 発掘調査遺跡位置図……………5	第8図 遺跡位置図……………12
三殿北遺跡	第9図 遺構配置図……………14
第2図 遺跡位置図……………6	名遺跡
第3図 遺構配置図……………8	第10図 遺跡位置図……………15
内間遺跡	第11図 遺構配置図……………17
第4図 遺跡位置図……………9	讃岐国府跡 35次調査成果の概要
第5図 12区遺構配置図……………10	第12図 調査位置図……………26
第6図 13区遺構配置図……………11	第13図 35-1区遺構配置図……………27
第7図 14区遺構配置図……………11	第14図 35-2・3区平・断面図……………28
横井南原遺跡	第15図 35-5区平・断面図……………29

写 真 目 次

三殿北遺跡	写真16 2区全景……………16
写真1 5区完掘状況……………6	写真17 2区9世紀代柱穴断面……………16
写真2 5区井戸内遺物出土状況……………6	写真18 SB101柱穴内黒色土器出土状況……………16
写真3 6区完掘状況……………7	讃岐国府跡第35次調査成果の概要
写真4 6区柱穴内平瓦出土状況……………7	写真19 35-1区全景……………30
写真5 7区溝内遺物出土状況……………7	写真20 35-1区全景……………30
内間遺跡	写真21 正方位主軸の櫛列……………31
写真6 12区大溝完掘状況……………9	写真22 正方位主軸の櫛列と廃棄土坑 (SX1143)……………31
写真7 12区大溝土層断面……………9	写真23 開法寺東方地区と開法寺地区……………31
写真8 13区東半完掘状況……………10	写真24 西辺の溝群……………31
写真9 13区株跡内遺物出土状況……………10	写真25 建物4・5(13世紀前葉ごろ)……………31
写真10 14区西半完掘状況……………11	写真26 超大形廃棄土坑(SX1078)ほか検出状況……………31
横井南原遺跡	写真27 超大形廃棄土坑(SX1078)ほか検出状況……………31
写真11 方形周溝墓4全景……………12	写真28 鍛冶関連遺構(SX1138)全景……………32
写真12 溝跡弥生土器出土状況……………12	写真29 鍛冶関連遺構(SX1138北)断面……………32
写真13 9世紀代と18世紀後半の溝跡……………13	写真30 鍛冶関連遺構(SX1138)出土遺物……………32
写真14 方形周溝墓群と18世紀後半の溝跡群……………13	写真31 35-3区全景……………32
名遺跡	写真32 35-5区全景……………32
写真15 3区全景……………15	

表 目 次

第 1 表	職員一覧	1	第 13 表	体験講座への講師派遣一覧	18
第 2 表	発掘調査決算	3	第 14 表	講演等への講師派遣一覧	19
第 3 表	整理・報告決算	3	第 15 表	子どもミュージアム実施事業一覧	19
第 4 表	管理運営費等決算	3	第 16 表	発掘体験講座	19
第 5 表	発掘調査遺跡一覧	4	第 17 表	考古学講座一覧	19
第 6 表	遺跡の概要一覧	4	第 18 表	資料貸出・利用一覧	20
第 7 表	整理・報告遺跡一覧	5	第 19 表	職場体験学習・インターンシップ一覧	20
第 8 表	刊行報告書一覧	5	第 20 表	地域との交流一覧	21
第 9 表	展示一覧	18	第 21 表	情報発信一覧	21
第 10 表	入館者数一覧	18	第 22 表	関連行事一覧	21
第 11 表	センター外展示一覧	18			
第 12 表	現地説明会・地元説明会一覧	18			

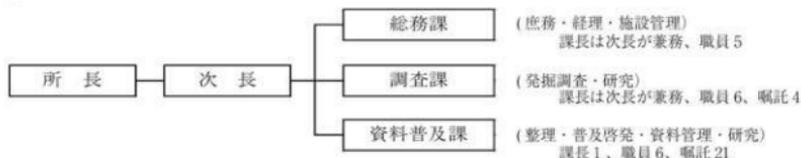
(註)

- 1 本書で用いる座標系は世界測地系(国土座標第IV系)で、標高は東京湾平均海面を基準とした。
- 2 遺構は次の略号により表示した。
SH 竪穴建物 SB 掘立柱建物 SP 柱穴・小穴 SK 土坑 SE 井戸 SD 溝
SR 旧河道 SX 性格不明遺構 SF 竈
- 3 遺跡位置図は国土地理院地形図(1/25,000)に遺跡位置を追記して掲載した。

I 組織・施設・決算

1 香川県埋蔵文化財センターの組織

(1) 組織



(2) 職員

平成29年4月1日現在

所 属	職 名	氏 名
所 長	所 長	増 田 宏
次 長	次 長	森 格 也
総 務 課	課 長 (兼 務)	森 格 也
	副 主 幹	斎 藤 政 好
	主 任	高 橋 範 行
	主 任	丸 尾 麻 知 子
	主 任	岩 崎 昌 平
	主 任	横 井 隆 史
調 査 課	課 長 (兼 務)	森 格 也
	主任文化財専門員	木 下 晴 一
	文化財専門員	山 元 素 子
	文化財専門員	宮 崎 哲 治
	主 任 技 師	真 鍋 貴 匡
	主 任	西 谷 敬 司
	技 師	大 山 裕 矢
	嘱 託	井 上 加 奈 子
	嘱 託	名 倉 美 保
	嘱 託	徳 永 貴 美
資 料 普 及 課	課 長	角 野 勲
	主任文化財専門員	古 野 徳 久
	主任文化財専門員	山 下 平 重
	主任文化財専門員	森 下 英 治
	主任文化財専門員	蔵 本 晋 司

資料普及課	主任文化財専門員	松本 和彦
	文化財専門員	森下 友子
	技 師	竹内 裕貴
	嘱 託	西本 智子
	嘱 託	竹村 恵子
	嘱 託	合田 和子
	嘱 託	川井 佐織
	嘱 託	今井 由佳
	嘱 託	森國 愛子
	嘱 託	正本 由希子
	嘱 託	岡本 光代
	嘱 託	青屋 真理
	嘱 託	竹内 悦子
	嘱 託	北濱 敦子
	嘱 託	中嶋 美香
	嘱 託	小早川 真由美
	嘱 託	土井 美穂
	嘱 託	宮崎 直子
	嘱 託	大山 和子
	嘱 託	加藤 恵子
嘱 託	小林 奈充子	
嘱 託	佐々木 博子	
嘱 託	中野 優美	
嘱 託	山本 基公美	

第1表 職員一覧

2 施設の概要

(1)所在地 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

(2)敷地面積 11,049.23㎡

(3)建物構造・延床面積

①本館	鉄筋コンクリート造・2階建 (一部鉄骨造・平屋建)	1,362.23㎡
②分館	軽量鉄骨造・2階建	337.35㎡
③第1収蔵庫	鉄骨造・2階建	1,525.32㎡
④第2収蔵庫	鉄骨造・3階建	2,040.33㎡
⑤車庫	鉄骨造・平屋建	29.97㎡
⑥自転車置場	鉄骨造・平屋建	25.00㎡

3 決算の状況

(単位：千円)

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	三殿北遺跡	22,699
	内間遺跡	37,547
道路課	横井南原遺跡	30,208
	名遺跡	25,752
都市計画課	本町二丁目遺跡	12

※職員人件費は除く。

第2表 発掘調査決算

(単位：千円)

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	西村遺跡	17,223
	城泉遺跡	481
最高裁判所	丸亀城跡(大手町地区)	12,790
道路課	城泉遺跡	1,333
	三谷中原遺跡	8,267
	上林遺跡	13,731
	岸の上遺跡	14,962
	多肥宮尻遺跡	362
	多肥松林遺跡	425
	須田・中尾瀬遺跡 尾の上遺跡	534
河川砂防課	小僧遺跡	4,089
	飯野東二瓦礫遺跡	7,005
高校教育課	石田高校校庭内遺跡	13,791
保健体育課	平池南遺跡	574
警察本部	高松城跡	508
	汲仏遺跡	374

※職員人件費は除く。

第3表 整理・報告決算

(単位：千円)

事業名	決算	
管理運営費等	管理運営費	4,147
	職員給与費	143,657
	讃岐国府跡調査事業	12,843
合 計	160,647	

第4表 管理運営費等決算

II 事業概要

1 埋蔵文化財調査事業

発掘調査を分掌する調査課では調査班2班を編成し、国道バイパス建設、県道整備、県所管国道整備に伴い計4遺跡の発掘調査を行った。

一方、報告書作成を分掌する資料普及課では整理班4班を編成し、国道バイパス建設、高松地家裁丸亀支部庁舎建設、県道整備、県所管国道整備、河川改修、高校施設改修に伴う9遺跡の整理及び10冊の報告書の刊行を行った

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	調査期間
国土交通省	国道11号大内白鳥バイパス	三殿北遺跡	東かがわ市三殿	1,726	6月～8月
		内間遺跡	東かがわ市町田	2,821	9月～1月
道路課	国道438号	名遺跡	丸亀市飯山町下法軍寺	2,225	11月～3月
	円座香南線	横井南原遺跡	高松市香南町横井	2,741	4月～10月

第5表 発掘調査遺跡一覧

遺跡名	遺跡の概要	主な遺構・遺物
三殿北遺跡	古代末～中世の集落遺跡	古代末から中世の掘立柱建物跡、溝、柱穴、土坑、井戸、中世以降の掘溝跡 土師器、須恵器、平瓦、金属器、柱材等木製品
内間遺跡	弥生時代～中世の集落遺跡	弥生時代後期の根株痕、古代の大溝(灌漑水路)、中世の柱穴群多数、溝、土坑 土師器、須恵器、瓦、金属器、木製品
名遺跡	弥生時代後期の墓域、 古代～近世の生産遺跡	弥生時代後期前半の周溝墓、古代の集落、近世の農作に伴う溝群 ガラス玉、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器
横井南原遺跡	古墳時代後期～平安時代の集落	古墳時代後期の竪穴建物、奈良～平安時代の掘立柱建物群 土師器、須恵器

第6表 遺跡の概要一覧

原因者	遺跡名	所在地	整理期間
国土交通省	西村遺跡	東かがわ市西村	6月～12月
国土交通省	城泉遺跡	東かがわ市白鳥	報告書刊行(前年度整理)
最高裁判所	丸亀城跡(大手町地区)	丸亀市大手町	6月～10月、報告書刊行
道路課	城泉遺跡	東かがわ市白鳥	4月、報告書刊行
道路課	三谷中原遺跡	高松市三谷町	4月～5月、1月～3月
道路課	上林遺跡	高松市上林町	4月～5月、10月～3月
道路課	岸の上遺跡	丸亀市飯山町	7月～11月
道路課	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町	報告書刊行(前年度整理)
道路課	多肥松林遺跡	高松市多肥上町	報告書刊行(前年度整理)
道路課	須田・中尾瀬遺跡、尾の上遺跡	三豊市詫間町詫間	報告書刊行(前年度整理)

原因者	遺跡名	所在地	整理期間
河川砂防課	小僧遺跡	東かがわ市川東	5～6月、報告書刊行
河川砂防課	飯野東二瓦礫遺跡	丸亀市飯野町	7月～9月、報告書刊行
保健体育課	平池南遺跡	丸亀市金倉町	報告書刊行（前年度整理）
高校教育課	石田高校校庭内遺跡	さぬき市寒川町	4～6月、12月～3月
警察本部	高松城跡	高松市西内町	報告書刊行（前年度整理）
警察本部	汲仏遺跡	高松市多肥上町	報告書刊行（前年度整理）

第7表 整理・報告遺跡一覧

書名
国道11号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 城泉遺跡
高松地家裁丸亀支部庁舎新営工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 丸亀城跡（大手町地区）
県道紫雲山山線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 尾の上遺跡 須田・中尾瀬遺跡
県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥松林遺跡
県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥宮尻遺跡
中小規模河川古川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小僧遺跡
中小規模河川赤山川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 飯野・東二瓦礫遺跡
香川県立丸亀競技場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 平池南遺跡
香川県警察高松北警察署建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡
香川県警察本部機動隊舎建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 汲仏遺跡
埋蔵文化財試掘調査報告XIX
香川県埋蔵文化財センター年報 平成28年度
讃岐の南海道を歩く ミステリーハンター
讃岐国府 ミステリーハンターの参加活動 讃岐国府跡探索事業ボランティア調査員（2013年度～2017年度）

第8表 刊行報告書一覧



第1図 発掘調査遺跡位置図

みどのきた 三殿北遺跡

三殿北遺跡は、東かがわ市三殿に位置し、平成 29 年 6 月 1 日から 8 月 31 日まで、国道 11 号大内白鳥バイパス建設に伴い、道路建設予定範囲のうち 1,726㎡を対象として発掘調査を行った。

遺跡は、東かがわ市とさぬき市にまたがる山地から番屋川が平野部へ出てきた箇所北側に位置しており、現在は水田や畑として土地の利用がされている。

平成 28 年度に遺跡の東半部の発掘調査を実施し、弥生時代から近世にかけての遺構・遺物を確認している。遺構は番屋川の旧河道が大半を占めているが、「上井」の墨書を持つ平安時代の土器や硯、銅製品の破片などの遺物が出土しており、近接した範囲に公的施設のような性格の遺構群が存在する可能性があると考えられている。今年度の調査地点は、西方に約 50 m 離れた場所で、一段高い水田にあたる。



第 2 図 遺跡位置図 (1/25,000)

基本的な土層序は、耕作土・床土の下位に分厚い砂層・砂質土層が堆積しており、この砂層・砂質土層は、番屋川の氾濫がもたらしたものと、西・北側の山地上から流入したものとみられ、部分的に滞水状況を示す薄い粘土層が混じるものとなっている。

調査の結果、主に古代末～中世の遺構・遺物を検出した。対象地は工程等の都合上 3 つに分類して調査を行い、調査区名は平成 28 年度の続き番号を付したため 5 区から 7 区と呼称している。

5 区

調査の結果、遺構検出面を 2 面確認した。上位の検出面 (1 面) では、主に多数の鋤溝 (畝溝) が見られ、中世以降に農地として土地利用されていたことが分かる。調査区内にある段差の低い側 (東側) でのみ検出しており、高い側 (西側) は削平を受けたため検出されなかったとみられる。

下位の検出面 (2 面) では、古代末から中世の溝、柱穴、土坑、井戸などを確認した。柱穴はその並びから 3 棟の掘立建柱建物を復元しており、建物の主軸方向から異なる 2 時期の建物があると考えられる。溝は小規模なものが多いが、5 区南半で検出した溝はほぼ直角に折れ曲がっており、区画を目的と



写真 1 5 区完掘状況 (南東から)



写真 2 5 区井戸内遺物出土状況

した可能性がある。井戸は素掘りで、底部分に曲げ物や土器など集水を目的とした施設はみられない。埋土中から土器と一緒に、切断された竹筒や木の枝などが出土した。井戸に先行して土坑が掘られているが、素掘りの井戸の可能性はある。

6区

5区と同様に遺構検出面は2面で、上位の検出面には鋤溝（畝溝）を検出したが、密度が希薄なこともあり、下位の遺構面の調査に注力した。古代末から中世の溝、柱穴、土坑を確認している。6区の溝は一部を除いてほぼ同一方向を示し、5区の直角に折れ曲がる溝の続きも確認した。区画目的と思われる溝は南・東の調査区外へ連続しており、区画全体の規模は確認できていない。柱穴の中には、柱の痕跡を残すものや、溝と同じ方向に並ぶものもみられるが、建物を復元するには至っていない。平瓦が出土したものや柱材の一部が残るものも確認できた。柱穴の密度から、集落は比較的短期間しか存続していない可能性が高い。



写真3 6区完掘状況（南から）



写真4 6区柱穴内平瓦出土状況

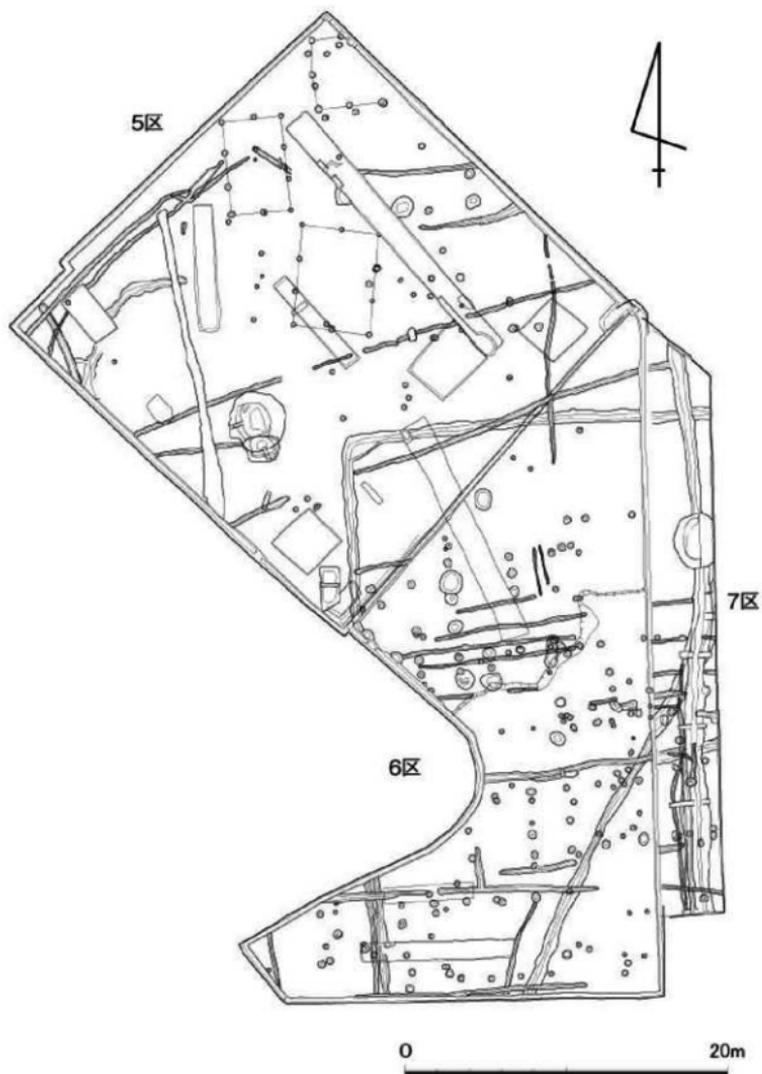
7区

調査の進め方は6区と同様、下位遺構面の調査に注力した。古代末から中世の溝、柱穴、井戸を検出した。5・6区と続く区画目的の溝がさらに東へ延びることを確認した。その溝の埋没後には、やや規模の大きな直交する方向を持った溝が掘られている。溝の中からほぼ完形の土器椀などが出土したが、破片を含めた量は少ない。この溝の埋没後に井戸が掘られている。井戸は素掘りで、底部分に曲げ物や土器など集水を目的とした施設は見られない。埋土中から土器と一緒に、板材や木の枝が出土しているが、井戸の埋没過程で廃棄されたものとみられる。

平成28年度の調査から推定された、平安時代の公的施設のような性格の遺構群は確認することができなかったが、同時代の集落の一端を確認することはできた。直角に曲がる溝の内側には、建物を復元することができなかったが多数の柱穴を確認しており、屋敷地の区画溝の可能性はある。遺跡周辺には古代から中世の集落の存在が知られており、当該地一帯の歴史的景観を考えるうえの資料がまた一つ増えたといえよう。



写真5 7区溝内遺物出土状況



第3図 遺構配置図

内間遺跡

内間遺跡は、東かがわ市町田に位置し、平成 29 年 9 月 1 日から平成 30 年 1 月 31 日まで、国道 11 号大内白鳥バイパス建設に伴い、道路建設予定範囲のうち 2,821 m²を対象として発掘調査を行った。

遺跡は、那智山（標高 271 m）から北へ派生する丘陵の裾部と番屋川が接する付近の斜面地に位置しており、現在は水田や居住地として土地の利用がなされている。

平成 26・27 年度に遺跡の東半部の発掘調査を実施し、縄文時代から近世に至るまでの遺構・遺物を検出している。弥生時代の土器棺や飛鳥時代の灌漑水路と建物跡、中世の出水跡や池状遺構、近世の集落跡や井戸などを検出した。今年度の調査地点は、既往の調査区と市道を挟んで西側で、階段状に開かれた水田にあたる。

基本的な土層序は、耕作土・床土の下位に南側の丘陵の花崗岩に由来する粗砂・砂質土層が堆積しており、部分的には近世の遺物を含んだ包含層が見られる。基本的に遺構面は 1 面だが、谷筋の埋没途中に遺構が作られ 2 面となる部分も存在する。砂質土が基本のため、至る所で湧水がみられた。

調査の結果、主に弥生時代後期、古代末から中世、近世の遺構・遺物を検出した。対象地は複数に分割して調査を行い、調査区名は既往の調査区の続き番号を付したため 12 区から 14 区と呼称している。

12 区

市道丹生停車場線を挟み、平成 27 年度調査地の西側に位置する調査区の北半にあたる。

過去の調査対象地内を東西に流れる古代の灌漑水路と考えられる大溝が、12 区にも連続することが判明した。溝は現在の私道とほぼ重なりながら北西部で調査区外へ延びている。溝内は現在も湧水が見られ、弥生土器とともに埋没した自然木も遺存していた。溝底の急激な高低差や弥生土器の出土などから弥生期の旧自然河川の利用が考えられるなど大溝の時期・性格を再考する資料や、周辺の植生が推定できる異なる樹種の自然木など、貴重な資料が得られた。

大溝埋没後は主に居住地として土地利用されており、複数の柱穴を検出したが、建物を復元するまで



第 4 図 遺跡位置図 (1/25,000)



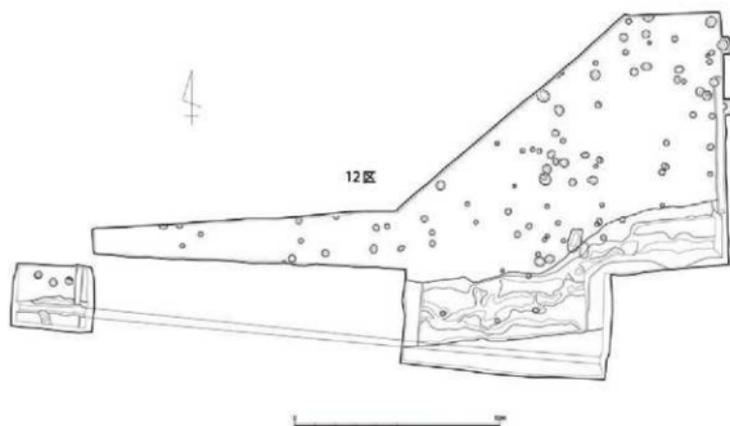
写真 6 12 区大溝完掘状況



写真 7 12 区大溝土層断面

には至らなかった。柱穴は一部に近世のものを含むが、ほとんどが中世に属するもので、底に根石を使用したものや、柱材の一部が残るもの、柱を抜き取った後に石を詰めたものなどが見られた。

近世以降は水田として土地利用がなされている。



第5図 12区遺構配置図

13区

市道丹生停車場線を挟み、平成27年度調査区の西側南半で、12区に隣接する。調査の工程上、3つに分けて調査を行った。北西・北東部に一部遺構検出面が重複して存在している。

弥生時代後期には数基の土坑や北方向に開ける谷状地形などがあるが、特筆すべきものとして大小2つの巨樹の根株痕がある。出土した弥生土器は大きい根株からが圧倒的に多いが、小さい株跡の中央部には小石を意図的に配した丸い穴がみられ、何らかの祭祀的な行為があったことが推察される。類例調査などを含めて詳細な分析が必要である。土器は出土するが住居跡などが調査区内に存在しないことから、居住域は調査区近辺に存在すると思われる。

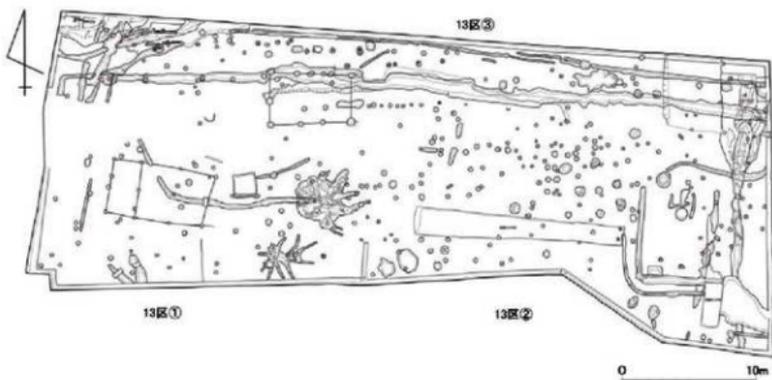
その後、中世になると居住域となったようで、掘立柱建物を含んだ多数の柱穴を検出した。柱穴は比



写真8 13区東半完掘状況(西から)



写真9 13区株跡内遺物出土状況



第6図 13区遺構配置図

較的小ぶりなものが多く、一般的な集落が形成されていたようである。また、条里地割と一致する方向の溝も掘られており、現在の周辺の地割がすでに存在していたことがわかる。

近世になると遺物を含む柱穴がわずかにあるが、主に水田として土地利用がされていたようである。

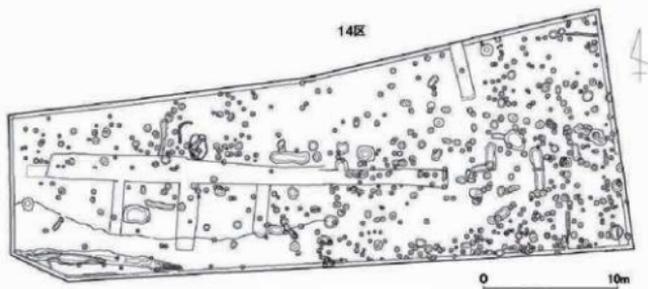
14区

13区とは若干低い水田2筆を隔てた西側に位置する調査区で工程上2つに分割して調査を行った。

弥生土器片はほとんど見られず、古代末から中世に集落として土地利用がされたようである。比較的長期間、居住城として使用したらしく、約600基の柱穴群、約50基の土坑群などを検出した。建物の復元はまだできていないが、条里地割と同じ方向を持つ柱穴列が確認できるなど、地割の方向に規制された建物も存在したことがうかがえる。柱穴の一部には、柱の抜き取り痕を埋め戻した土に焼土や炭の破片が混じるものも少数みられ、建物の一部は火災に遭った可能性がある。その後、近世には集落は途絶し、水田としての土地利用に変遷している。



写真10 14区西半完掘状況(東から)



第7図 14区遺構配置図

よこいなんぼら
横井南原遺跡

横井南原遺跡は高松市香南町横井に所在する。県道門座香南線（香南工区）建設に伴い発掘調査を実施した。調査地は平成28年度の調査地の北側に位置する。

遺跡周辺は八手状に入り組んだ丘陵が南から北へ派生しており、全体に南から北へ傾斜する。遺跡はその丘陵の一つの、西から東へ傾斜する位置に立地する。東側には尾池が広がる。

調査区は、平成28年度に実施した部分を1区とし、平成29年度は南から北へ2区から7区まで設定した。

調査区全体を通して、丘陵斜面の頂部に近い西半部は削平が著しく、耕作土直下で花崗岩風化土や黄褐色粘土であるベースが認められた。東半部は耕作土の下部に浅黄シルト、灰黄色シルトなど近世の堆積層があり、その下部に明黄褐色粘質土などのベースが認められる。2区から4区南半ではおもに近世の溝跡群を、3区北半から4区では弥生時代後期の周溝墓群等を検出した。7区は近代以降の土坑や溝跡を検出したのみであった。また6・7区の北東部分は尾池の埋め立て土が認められた。



第8図 遺跡位置図 (1/25,000)

弥生時代後期

3区北半から5区にかけて方形周溝墓1～6を検出した。検出状況から周溝を共有させながら周溝墓を築造したことが窺える。周溝の出土遺物から遺構の時期は弥生時代後期前半と考えられるが、出土遺物は非常に乏しく遺存状態も悪い。また、周溝は後世の削平や溝の掘削により消失する部分も多い。弥生時代後期後半と考えられる壺が出土したSD7036をはじめ、6区、7区南半でも、周溝墓群と主軸方位が同じで弥生時代後期と考えられる溝を検出した。

周溝墓の規模はおおむね一辺7m前後で、周溝の深さは5～30cm程度である。周溝墓4のみ8m×15m、周溝の幅は1.3m前後、深さ30～50cm程度を測り、他よりやや規模が大きく周溝も深い。主体部を検出できたのは周溝墓4のみであるが、周溝の残存状況が悪いことから他は削平により失われたと考えられる。

周溝墓4の主体部は、周溝墓の溝の方向と異な



写真11 方形周溝墓4全景 (南東から)



写真12 溝跡 SD7036 弥生土器出土状況 (北西から)

るものの、周囲の状況から主体部と判断した。主体部は長方形を呈し、長辺2.6 m、短辺0.98 mの木棺墓と考えられる。主体部の土は持ち帰って洗浄した結果、土器は出土しなかったものの、ガラス玉が1点出土した。

9世紀代

3区南部で溝跡 SD3050 を検出した。南から北へ流れ、中程で北東方向へ湾曲し、18世紀後半の溝により消失する。3区南端部分は二股に分かれ、2区では検出できなかった。埋土中からは9世紀代の須恵器が出土した。また、2区中央部付近では、SD3050と同じ埋土を持つ東西方向の溝跡 SD2055 を検出した。

検出した古代の遺構は少ないものの、18世紀後半の溝跡からは陶磁器類とともに9世紀代の須恵器が多数出土しており、18世紀後半の溝跡群により消失した古代の遺構が存在した可能性がある。

18世紀後半

2区から4区南半にかけて溝跡群を検出した。おおむね現在の地割に沿うもので、やや規模の大きい南から北方向の溝跡2条 SD3007・SD3016 とこれらに直交するやや小規模な溝跡2条 SD3004・SD3008 がある。

これらの溝は調査直前まであったコンクリート畦畔と同じ位置にあるものもあり、発掘調査直前までの景観はこの頃までは遡れると考えられる。南北方向の2条の溝はその規模から、基幹的な水路の役割を果たしたと考えられる。埋土中からは陶磁器類や土師質土器焙烙片などが出土した。



写真13 9世紀代と18世紀後半の溝跡群（北から）



写真14 方形周溝墓群と18世紀後半の溝跡群（南から）



第9図 遺構配置図

みょう 名 遺 跡

名遺跡は丸亀市飯山町下法軍寺に所在する。国道438号道路改良工事に伴い発掘調査を実施した。丸亀平野東部に位置し大東川の西北岸に立地する。周辺は北から西に30°傾く条里型地割りが広がるが、遺跡の北側は大東川の氾濫による地割りの乱れが顕著である。約1.5km北側には、古墳時代後期の堅穴建物群や古代の掘立柱建物群を検出し、古代南海道の比定地にも相当する岸の上遺跡が、約800m南西側には、奈良時代の創建が伝えられる法熱寺跡がある。



名遺跡の調査は平成29・30年度にわたって実施され、**第10図 遺跡位置図 (1/25,000)**
平成29年度は北側から調査を実施した。調査区は北西から1～7区を設定した。

1区～2区北側、5区にかけては耕作土・近世以降の包含層の下部にベースである礫が広がり、部分的に古代の遺物包含層が堆積する。2区中央部付近から南側では近世の遺物包含層の下部に灰褐色シルト層の堆積が認められ、ベースはおおむね明黄褐色粘土である。遺構は灰褐色シルト層から掘り込まれた。

3・4・6区では耕作土、近世遺構の堆積層などの下部で、暗灰黄色砂混粘土・シルト層、黒色粘土層が堆積し、ベースは黄色粘土または粘土混粗砂であった。堆積土中からは遺物はほとんど出土しなかった。遺構は黒色粘土層から掘り込まれた。

弥生時代後期

3区の黒色粘土層の上面から掘り込まれる溝跡である。埋土はベースである黒色粘土層と判別が難しく、調査では黒色粘土層の掘削後に検出した。

SD3010は、蛇行しながら南から北西方向へ流れ、調査区外へ延びる。南から7m付近では円周状に回る。埋土中からは遺物はほとんど出土しなかったが、円周状に回る部分付近で、弥生時代後期の甕などが出土した。また3区北半部では、南西から北東へ向く、同じ埋土を持つ小規模な溝SD3011・3012を検出した。ともに埋土はSD3010に類似するが、SD3011は遺構の重複関係によりSD3010より古い。SD3011に規模や埋土が似るSD3012も同様と考えられる。



写真15 3区全景 (南から)

古墳時代

2区で堅穴建物2棟を検出した。

北側では東西3.8m×南北3.5mの方形の堅穴建物SH2047を検出した。建物方位は正方位からやや西へ振る。主柱穴4個と壁溝を検出したが、炉跡やカマド跡は検出できなかった。床面の中央付近から土師器壺の体部が出土した。遺構の時期は古墳時代前期と考えられる。

中央部付近では、北側にカマドを持つ竪穴建物SH2048を検出した。おおむね正方位を示す。カマドの位置を勘案し、東西6.5m×南北5m程度を想定したが、ベースと考えられる黒色粘土と竪穴建物の埋土の区別が難しく、東・南側の平面プランははっきりとはわからなかった。壁溝は部分的に検出したが、主柱穴は不明であった。床面上からは6世紀後半の須恵器杯身が出土した。遺構の時期は6世紀後半と考えられる。

9世紀代

2区で古代の柱穴群を確認した。柱穴内には礎石や栗石と考えられる石が埋められるものも多い。柱穴には切り合い関係があるものもあり、時期の細分については検討が必要ではあるが、出土遺物や埋土の類似性によりおおむね同時期と考えられる。柱穴の一部からは9世紀代と考えられる土師器羽釜や黒色土器碗、瓦片などが出土した。

掘立柱建物は2棟を復元した。いずれも竪穴建物や現在の地割とは合致しない。

SB201は2間分の北西側柱列と南東側へ続く柱穴を1穴ずつ検出した。南東側は後世の攪乱のため不明である。SB202は2間×3間で、面積は約30㎡を測る。主軸方位はSB201とほぼ同じである。柱穴は深く埋土は非常に硬い。いずれも柱穴埋土からの出土遺物はほとんどなかったが、周囲の柱穴の出土遺物から9世紀代と考えられる。

2区では、建物に復元できなかつた柱穴群が広がっており、周辺ではこの時期の集落が広がっていると考えられる。また、周辺の条里型地割と主軸方位が合わず、地形に制約された主軸方位であったと考えられる。

11世紀代以降

1区北側で掘立柱建物SB101を検出した。1間×3間を検出し、東へ延びる可能性もある。面積は約22㎡以上で、主軸方位は現在の地割に沿う方向である。東端の柱穴2穴の底付近からは黒色土器が1個体ずつ出土した。遺構の時期は11世紀末と考えられる。

3区中央付近では現在の地割に沿う方向で東西方向の溝2条SD3001・3009を検出した。遺物はほとんど出土せず、遺構の時期は不明だが、条里型地割の方向に沿うことから古代後半以降と考えられる。

6区では条里型地割の方向に沿う南北方向の溝SD6001を検出した。遺構の重複関係から、この溝はSD3001より新しい。この溝は、次年度の調査結果から更に南へ続くことが判明している。



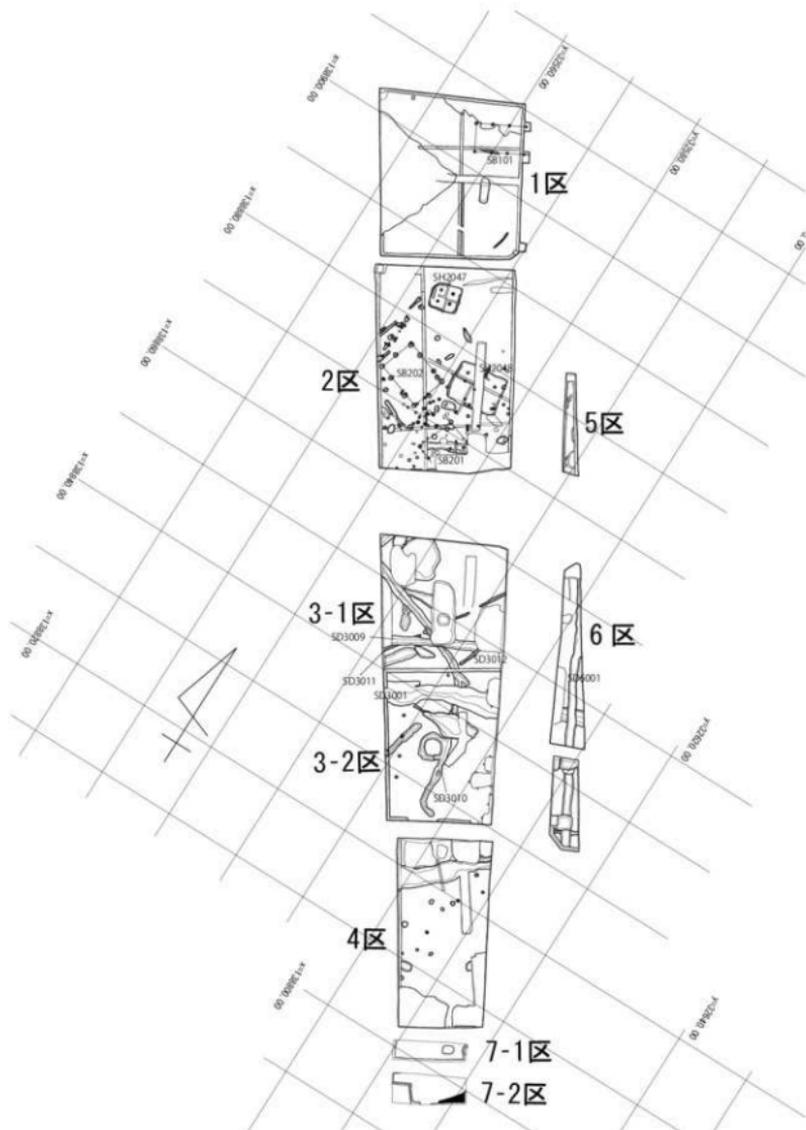
写真16 2区全景(北から)



写真17 2区9世紀代柱穴断面(西から)



写真18 SB101柱穴内黒色土器出土状況(南から)



第 11 図 遺構配置図

2 普及・啓発事業

(1) 展示

① 香川県埋蔵文化財センターでの展示

	タイトル	場所	会期
1	遺跡・遺物からみた香川の歴史	第1展示室	4月1日～3月31日
2	讃岐国府路を探る8	第2展示室	4月1日～5月12日
3	平成28年度発掘調査速報展	第2展示室	4月19日～7月10日
4	子どもミュージアム わかしのひとの米作り	第2展示室	7月18日～9月26日
5	県指定有形文化財(考古資料)指定記念 上天神遺跡出土辰砂関連資料展	第2展示室	8月29日～9月26日
6	第3回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 四国のハニワ	第2展示室	10月3日～12月22日
7	讃岐国府路を探る9	第2展示室	1月4日～3月31日

第9表 展示一覧

一般			団体							合計			
大人	子ども	計	団体数			構成員数							
			一般	高校生	小・中・小学生	幼稚園	計	一般	高校生		小・中・小学生	幼稚園	計
966	115	1,071	8	0	7	0	15	220	0	427	0	647	1,718

第10表 入館者数一覧

単位：人

② 香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

	タイトル	場所	会期	観覧者数(人)
1	讃岐国府路を探る8	高松市讃岐国分寺跡資料館	5月23日～7月9日	598
2	讃岐国府路を探る8	三豊市宗吉かわらの里展示館	7月11日～7月30日	400
3	讃岐国府路を探る8	府中瀬カヌー研修センター	10月1日	8,000
4	讃岐国府路を探る8	坂出市郷土資料館	10月27日～11月29日	146
5	本村中遺跡～三豊の縄文時代を探る～	三豊市宗吉かわらの里展示館	8月1日～31日	607
6	讃岐国府路を探る8	綾川町立生涯学習センター	1月16日～2月12日	789
7	第3回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 四国のハニワ	松山市考古館	4月29日～7月9日	4,666
		高知県立埋蔵文化財センター	7月17日～9月22日	1,513
		徳島県立埋蔵文化財総合センター	1月12日～3月18日	2,748
合 計				19,467

第11表 センター外展示一覧

(2) 現地説明会・地元説明会

	内容	実施日	対象	見学者数(人)
1	横井南原遺跡現地説明会	8月6日	一般	50
2	名道跡地元説明会	1月27日	一般	50
3	讃岐国府路現地説明会	2月10日	一般	100
4	讃岐国府路第35次調査地 平成29年度開発跡発掘調査報告会	3月4日	一般	155
合 計				355

第12表 現地説明会・地元説明会一覧

(3) 講師の派遣

① 体験講座など

	依頼者	実施日	場所	内容	対象	参加者数(人)
1	大野原地区青少年育成会	7月28日	観音寺市大野原中央公民館	勾玉作り	小学生	30
2	鳥取県立むきばんだ史跡公園	9月23日	鳥取県立むきばんだ史跡公園	アングレン編み	一般	22
合 計						52

第13表 体験講座への講師派遣一覧

② その他

	依頼者	実施日	内容
1	さぬき市文化財保護協会東川支部	4月23日	講演
2	三豊市文化財保護協会詫間支部	4月27日	講演
3	丸亀市文化財保護協会	5月19日	講演
4	香川県文化財保護協会	5月24日	講演
5	観音寺市大野原中央公民館	6月9日	講演
6	高松市讃岐国分寺跡資料館友の会	6月10日	講演
7	四国学院大学総合教育センター	6月26日	講演
8	丸亀郷土史会	7月8日	講演
9	綾歌神社総代会	7月9日	講演
10	高松桜井高校	8月1日	講演
11	鶴尾校区コミュニティ協議会 鶴尾校区老人クラブ連合会	9月19日	講演
12	大倉工業健康保険組合	11月3日	歴史遺産案内
13	府中壮成会	11月9日	講演
14	香川県高等学校校地歴史公民科研修会歴史部会	12月14日	講演
15	蓬萊歴史研究会	1月16日	講演
16	綾川町教育委員会	1月28日	講演
17	総合型地域スポーツクラブ みんなでスポーツさかいで	2月3日	歴史遺産案内
18	三木町文化財保護協会・三木町教育委員会	2月3日	講演
19	香川県山岳連盟	2月4日	講演

第14表 講演等への講師派遣一覧

(4) 子どもミュージアム

7月18日～9月26日に子どもミュージアムを行った。

実施日	タイトル	内容	参加者数(人)
7月18日～9月26日	わかしのひとの手作り	展示	334
7月21日～8月21日	遺跡の自由研究サポートデスク	自由研究のアドバイス	2
7月21日・25日	古代をたいけんしてみよう	円筒はにわのペン立て作り、編みかご作り	57
7月27日	古墳見学	さぬき市富田茶臼山古墳見学	12
合 計			405

第15表 子どもミュージアム実施事業一覧

(5) 発掘体験講座

8月3日に発掘体験講座を行った。

実施日	タイトル	内容	参加者数(人)
8月3日	見つけよう！香南町の文化財	横井南原遺跡発掘体験	12
合 計			12

第16表 発掘体験講座

(6) 考古学講座

専門職員が講師を務める考古学講座を4回開催した。

回	実施日	タイトル	講師	人数(人)
1	7月8日	坂出市周辺における江戸時代から昭和初期の文化財保存・顕彰活動	森下友子	13
2	9月9日	武士の食事～おもに高松城跡の調査から～	山元素子	22
3	11月11日	考古学探偵団～瀬山古墳群を推理せよ～	宮崎哲治	17
4	1月13日	出土木製品の世界	山下平重	22
合 計				74

第17表 考古学講座一覧

(7) 文化ボランティア活動

文化ボランティアは、事業の記録撮影や普及事業の補助などを行った。8名が登録し、7回、延べ18名が活動に参加した。

(8) 新聞記事掲載

四国新聞に「古からのメッセージ第15部・さぬき考古学講座」として、計44回の連載を行った。埋蔵文化財センターが平成28年度に発掘または報告書を刊行した遺跡を紹介する「埋文調査レポート」(25回)、県立ミュージアムと共同開催した展示「讃岐びと 時代を動かす—地方豪族が見た古代世界—」の内容を紹介する「讃岐びと 時代を動かす展」(11回)、「第3回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展」の内容を紹介する「発掘へんろ展から」(8回)で構成した。

(9) 資料の貸出・利用

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館・その他公共団体	出版社・新聞社・その他民間企業	個人・他	合計
遺物	5	0	19	0	19	43
写真・パネル	0	1	11	3	1	16
レプリカ・模型	0	0	0	0	1	1
合計	5	1	30	3	21	60

第18表 資料貸出・利用一覧(数字は件数)

(10) 職場体験学習・インターンシップ

	団体名	期間	参加人数(人)
1	香川県庁インターンシップ	8月21日	3
2	香川県立飯山高等学校	8月21日～23日	2
3	高松市立香東中学校	9月5日～7日	2
4	坂出市立白峰中学校	9月5日～7日	3
合 計			10

第19表 職場体験学習・インターンシップ一覧

(11) 刊行物

- ①『香川県埋蔵文化財センター年報 平成28年度』
- ②『いにしへの讃岐』94号～97号

(12) ホームページ (<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>)

随時、更新を行った。トップページビュー数 20,056

(13) 資料の寄贈

榑原正信資料 瓦1点・陶質土器1点(平成30年2月)

森澤千尋資料 瓦1点(平成30年2月)

(14) 収蔵資料の指定

昭和62年から平成4年にかけて国道11号バイパス建設に伴い発掘調査が行われた上天神遺跡(高松市上天神町・三条町)から出土した「上天神遺跡辰砂関連資料」(1261点)が平成29年8月、香川県の有形文化財(考古資料)に指定された。

上天神遺跡は弥生時代後期初頭の高松平野における広域的な地域間交流の拠点として機能した大集落で、辰砂関係資料の土器は、主として内面に辰砂が付着するものである。これらの資料から、辰砂粉末を何らかの液体と調合、攪拌するなどの辰砂利用(加工)の作業工程が行われたことや、辰砂の保管あるいは運搬も土器に入れて行われていたと考えられる。上天神遺跡の資料数は県内でも突出しており、辰砂という特殊な素材を用いる加工等の利用作業が、集中的かつ大掛かりに行われたことを示している。

3 讃岐国府跡探索事業

「香川県文化芸術文化振興計画」に基づき平成21年度から開始した讃岐国府跡探索事業は、平成29年度で9年目を迎える。主な調査事業としては讃岐国府跡の遺構内容の確認を目的とした発掘調査を実施した。讃岐国府跡を活用した情報発信による主な広報活動事業は、まち歩きや講座を開催した。

讃岐国府跡の発掘調査は開法寺跡東側に存在する区画施設や建物の配置状況を明らかにすることなどに主眼を置いた。調査の結果、区画施設内に建物が規則的に配置されていたことがわかった。

(1) ボランティア活動

・登録人数 22人 ・延べ人数 193人

(2) 地域との交流

	内 容	実施日	参加人数
1	坂出市西庄町醍醐古墳群見学会	4月2日	85人
2	第19回水のフェスティバル in 府中満 まち歩き 道真の里を歩く	9月30日	60人
3	第19回水のフェスティバル in 府中満 展示 讃岐国府跡を探る 8	10月1日	8,000人
4	讃岐国府跡現地説明会 府中町民対象	2月10日	30人

第20表 地域との交流一覧

(3) 情報発信

	内 容	回 数
1	ホームページへの記事掲載	18回
2	情報誌「いにしへの讃岐」への記事掲載	2回
3	新聞への連載記事掲載	4回
4	庁内掲示板への掲載	1回
5	NHK出演	1回
6	KSB出演	1回
7	KBN出演	2回
8	四国新聞掲載	1回

第21表 情報発信一覧

(4) 関連行事

	行 事 名	会 場	実 施 日	参加人数
1	展示「讃岐国府跡を探る 8」	香川県埋蔵文化財センター	4月1日～5月12日	495人
2	展示「讃岐国府跡を探る 9」	香川県埋蔵文化財センター	1月4日～3月31日	246人
3	出張展示「讃岐国府跡を探る 8」	高松市讃岐国分寺跡資料館	5月23日～7月9日	598人
4	出張展示「讃岐国府跡を探る 8」	三豊市宗吉かわらの里展示館	7月11日～7月30日	400人
5	出張展示「讃岐国府跡を探る 8」	坂出市郷土資料館	10月27日～11月29日	146人
6	出張展示「讃岐国府跡を探る 8」	綾川町立生涯学習センター	1月16日～2月12日	789人
7	さぬき市文化財保護協会寒川支部総会記念講演「南海道について」	寒川農村環境改善センター	4月23日	30人
8	香川県文化財保護協会代議員会講演「讃岐国府跡発掘調査成果」	香川県立ミュージアム	5月24日	34人
9	郷土史講座「讃岐国府跡の最新の調査成果」	観音寺市大野原中央公民館	6月9日	39人
10	友の会歴史講演会「讃岐国府跡（第34次調査）の発掘調査の成果について」	高松市讃岐国分寺跡資料館	6月10日	21人

	行事名	会場	実施日	参加人数
11	丸亀郷土史講座「讃岐国府跡のこれまでの発掘調査の成果について」	丸亀市生涯学習センター	7月8日	11人
12	徳歌神社総代会記念講演「讃岐国府跡発掘調査成果」	岡田コミュニティセンター	7月9日	140人
13	「さぬきびと 時代を動かす」関連講座「讃岐国府の実像に迫る～成立から展開まで～」	香川県立ミュージアム	8月20日	118人
14	「さぬきびと 時代を動かす」関連シンポジウム「地域から見る古代史の可能性」	香川県立ミュージアム	10月29日	133人
15	発掘現場見学 大倉工業ハイキング	讃岐国府跡発掘調査地ほか	11月3日	50人
16	「さぬきびと 時代を動かす」関連現地見学会「讃岐国府ってどんなところ」	坂出市府中町	11月19日	39人
17	讃岐国府跡を探る8キャラリートーク	徳川町立生涯学習センター	1月28日	14人
18	発掘現場見学 総合型地域スポーツクラブみんなでスポーツ坂出「早春の黒山ハイキング」	讃岐国府跡発掘調査地ほか	2月3日	20人
19	讃岐国府跡発掘調査現地説明会(県民対象)	讃岐国府跡発掘調査地	2月10日	70人
20	讃岐国府跡第35次調査地 平成29年度開法寺跡調査地報告会	坂出市民ふれあい会館	3月4日	155人

第22表 関連行事一覧

Ⅲ 讃岐国府跡第35次調査成果の概要

遺跡名	讃岐国府跡
調査主体	香川県教育委員会
調査担当	香川県埋蔵文化財センター
調査期間	平成29年8月29日～平成30年2月28日
調査面積	353㎡ (35-1～5区)
出土遺物	土器・瓦・鉄滓・銅滴・埴塼等 コンテナ数251箱

1. 調査成果の概要

開法寺東方地区の発掘調査の最終年度となる今年度は面的な調査区を1か所(35-1区)、幅2mのトレンチ調査区を4か所(35-2～5区)設定した(第12図)。35-1区は開法寺東方地区に所在する方形の区画施設の南西隅部分に設定し、西側の開法寺地区との関係や区画施設の南辺部の状況確認、35-2～5区は段丘下の包蔵状況の確認、段丘崖の存否、低地形の形成過程の把握を目的とし、調査を実施した。調査の結果、区画施設の西辺部の状況、南辺部の位置が明らかになるとともに、段丘下に古代の遺構が展開しない状況を確認することができた。

2. 各時代の調査成果

(1) 35-1・2区(段丘上の調査区) 第13図

①飛鳥時代～奈良時代初頭

従前の調査で正方位(真北)ないし正方位からわずかに振れた主軸方位の建物群が確認されていたが(正方位主軸と正方位主軸基調の建物群)、その建物群の広がりが開法寺東方地区の南端付近まで展開することが明らかになった。南北120m以上の広がりに復元できる。注視すべきは柵列の存在である。2.1m間隔で8基の柱穴が並び(1尺=0.35mで6尺)、柵列以南にも正方位主軸の柱穴は展開するものの、南辺部を画する施設の可能性が想定できる。

②奈良時代～平安時代

開法寺東方地区の西辺部(開法寺地区との境界部分)

12～13世紀前葉に埋没する大規模な溝(SD1092、幅1.2～1.5m、深度0.7～0.8m)によって先行する溝の検出は一部に留まるが、規模や形状の異なる複数の溝を検出した。調査区北西隅と南西隅では連結土坑状の溝底に高低差を認める溝群が確認できる(SD1093・SD1094)。これらの溝群は本調査区の北側の過年度調査区(33-2区)で検出した溝群に連続する可能性が高く、開法寺地区と開法寺東方地区の間には長期間に渡って境界ともいえる施設が維持された状況が想定できる。

開法寺東方地区の南端部の状況

西辺部で検出した溝などの施設は確認できなかったが、遺構分布が示唆的な内容を示す。35-1区では北側2/3程の箇所には8世紀前葉以降に属する条里方向の柱穴が比較的高密度に分布するが、南1/3には条里方向の柱穴は確認できない。こうした遺構分布から、開法寺東方地区に展開する大形建物群は微高地南端部まで展開しない状況が想定できる。

建物

南北主軸の大形建物1、柱穴列2を検出した。大形建物(建物3)は梁間2間、桁行4間分の柱穴を検出しており、西側に廂を有する。柱間隔は身舎が3.0m、廂が2.4mを測る。建物の北端は調査区外へ延長するが、1間分延長した2×5間の規模と推測でき、廂を含めた面積は126㎡に達し(廂を除くと、90㎡)、讃岐国府のなかでも最大級の規模となる。帰属時期は出土遺物や重複関係から、9世紀前葉～10世紀初頭を想定しておきたい。さらに、本建物の西端は北側(33-2区)の大形建物の西端と直線ラインで揃えられており、建物配置の基軸線の存在が想定できる。本調査区の北東部でも建物端を直線的、L字形に揃えた状況を認め(昨年度調査)、開法寺東方地区の主要な建物配置に一定の基準があったことが窺える。

鍛冶関連遺構(SX1138)

2基の大形土坑が重複し、いずれの土坑内にも粘土を2重に敷設した遺構が確認できる。粘土の平面形は南側が円形、北側が長楕円形を呈し、南側が先行し、北側が後出する重複関係となる。調査は主軸方位に合わせたトレンチを2箇所に設定し、必要最小限に留めた。

南側は径4m、深度0.7m以上の掘方を開削し、土坑内底外縁を埋め戻しながら内側に径2m程の円形の土坑状の凹みを設け、その上面形状に沿ってやや粘性の少ない黄色系粘土を敷設した後、耐水性の高い鋼土状の青灰色粘土を設置したもので、その内側にわずかに炭化物を含む層位が堆積する。内側埋土内に被熱面は認められないが、鉄滓や溶解した土(増場ないし炉壁)が少量出土する。

北側は南側と同様の構造を呈するが、内側の粘土内には最厚部で3cm程度の炭層があり、一定量の鉄滓や溶解した土(ガラス質滓)、少量の銅滴が出土する(上面からは碗形鍛冶滓も出土)。炭層はカーボンペレットと考えられ、作業面と判断した。

鉄・銅製品の製作に関連した遺構と考えられ、鉄は鍛造、銅は鋳型が未確認であるため鋳造、彫金(既製品の再加工)、合金のいずれか作業が行われたと想定できる^(※1)。出土遺物は掘方下位から8世紀代の遺物が多く出土するが、遺構の重複関係から10～12世紀のいずれかの時期に属することは確実であり、最上層の瓦溜まりに10世紀前葉の土器・瓦をごく少量認めることから、10世紀前葉前後に廃絶した可能性が高い。トレンチ調査ではあるが、鍛冶関連遺物の出土量は少なく、断面観察からも複数回の作業は認められない。さらに両者に用いられる2種の粘土は極めて酷似しており、南北に重複関係はあるが短期間に操業された可能性が高い。平・断面構造、被熱面の欠落等類例に乏しく、その性格は判然としないが、出土遺物の様相、炭化物層の存在に加え、福原長者原遺跡^(※2)などの類例から、鉄釘や鏝、銅製の飾り金具などの建物金物を現地で生産した遺構と考えられ、施設の大規模改修時に際し、必要物資を現地で製作した臨時に設けられた工房であったと評価できる。

廃棄土坑(SX1143)

正方位主軸の柵列の南で検出した正方位主軸の廃棄土坑である。出土平瓦の多くは外面格子叩きで、わずかに縄叩きを認めるなど(上層:77%:23%、下層:62%:38%)、8世紀前葉前後の瓦が主体となるが、わずかに斜位の縄叩きの平瓦や10世紀代の土器が共存しており、10世紀前葉～11世紀前葉の帰属時期が想定できる。主軸方位は正方位を指向となる。開法寺東方地区では同主軸の遺構が7世紀後半ないし7世紀末～8世紀初頭に属するため、帰属時期と組織がある特異な遺構となる。検出箇所は開法寺東方地区の南西隅であり、その周辺では10世紀代まで正方位を指向する地割りが遺存した可能性を示唆するかもしれない。

③平安時代末～鎌倉時代

建物

条里地割に合致した方位の建物を2棟検出した(建物4・5)。前代までの隅丸方形の大形柱穴とは異なり、円形で径20cm以下の小規模な柱穴で構成される。出土遺物から13世紀前葉頃の年代が付与できる。讃岐国府跡の西半部の複数地点で、11世紀中葉～13世紀代の柱穴群がおおむね40m程度の範囲に集中する。各まとまりの一角には井戸を認め、外周施設は不明瞭ながら柱穴の集中範囲は一つの屋敷地の範囲を示すことが判明している。讃岐国府跡の西半部の250×600m程度の範囲には12～13の屋敷地が密集する状況が復元できる。

大形廃棄土坑(SX1078)

調査区中央やや西よりで当該期の建物に先行する超大形廃棄土坑を検出した(SX1078)。南北長約18m、東西最大幅約5mの楕円形を呈し、浅い皿状の断面形状となる(深度は0.3～0.4m)。多量の瓦が出土し、28ℓコンテナで100箱以上を数える。瓦の出土量や位置関係から開法寺のいずれかの堂宇の廃絶後に多量の瓦を投棄した廃棄土坑と考えられる。廃棄時期は従前の開法寺跡の調査からおおむね12世紀末頃が想定でき、前述した屋敷地の形成時期と開法寺の関係を考える上では重要な遺構となる。

(2) 35-3～5区(段丘下の調査区) 第14・15図

古代の遺構面が展開する段丘上と段丘下には2mに及ぶ崖面を認める。従前の研究では崖面は完新世段丘2面であり、段丘下には古代の遺構は展開しない可能性が高いと想定されている。

各調査区ともに、崖面際では地表下約1mで河川氾濫土が確認でき(B層)、南に向けてその上面深度が深くなる。最深部の深度は2m以上を測る。その上位には多様な埋土で構成される粘質土が厚く堆積し(C層)、その上面の一部には牛馬による耕作に伴うであろう攪拌層を認める。磨滅痕のない多量の古代の土器・瓦に混じり、14～15世紀頃の足釜が出土することから、段丘上を削平し、段丘下を埋め立てた造成土と考えられ、造成の目的は段丘下の耕地化と推測できる。国府廃絶時期が13世紀末頃であり(文献では14世紀初頭)、その後には大規模な耕地開発が行われたと理解できる。14～15世紀の造成後も数回の氾濫があったと考えられ、C層を開削する氾濫痕跡を認めるが(D層)、再度造成が行われる(E層)。さらに、現景観に近い状態が近世初頭に形成される^(※1)(F層)。こうした層序理解と出土遺物の年代観から、段丘下には古代の遺構は認められないことになる。

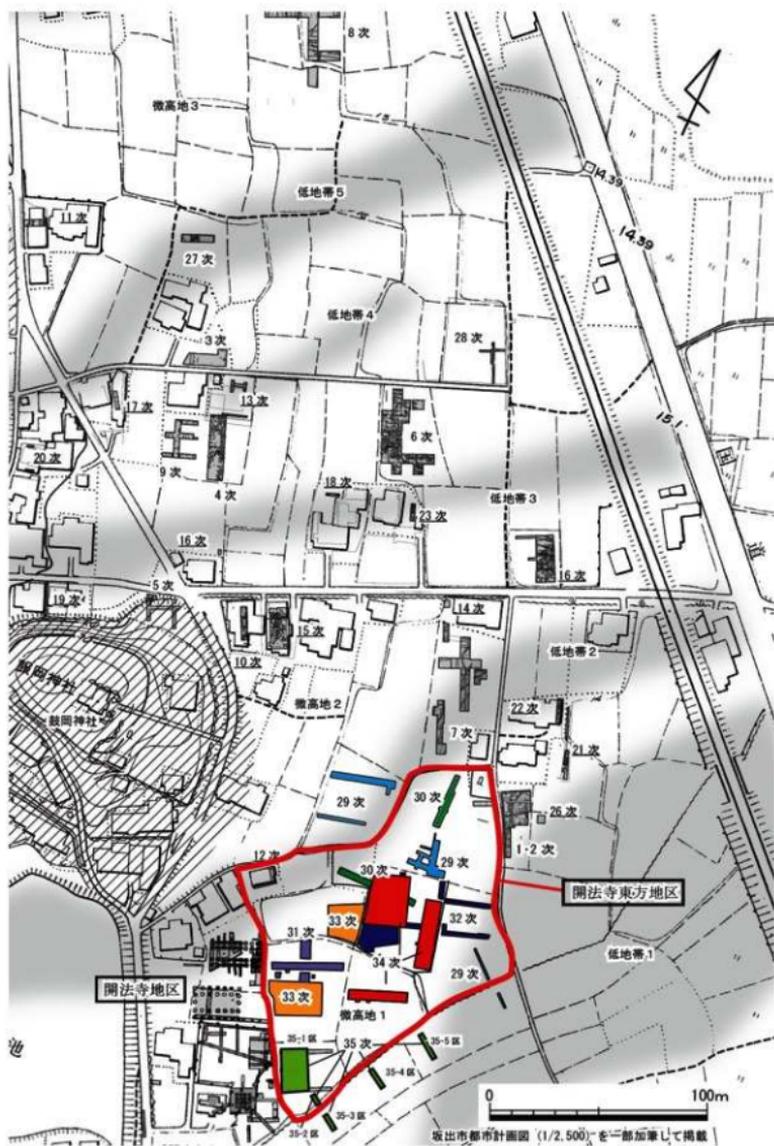
また、段丘上に展開する施設群の存続時期を考えると、B層が示す氾濫の時期が問題となる。出土遺物はなく時期の特定には至っていないが、段丘上で確認できる基盤層とは大きく異なり、自然地理学の研究成果を踏まえ^(※4)、現時点ではC層は古代末の氾濫に伴う堆積土と判断している。古代末のいずれかの時期に開法寺東方地区や開法寺地区が所在する微高地縁辺部付近に氾濫が及び、大形建物群の維持に何らかの影響を与えたと思われる。大形建物群が11世紀中頃に消滅することから、B層が埋積する大規模な氾濫は11世紀頃であったと考えておきたい。

(※1) 五十川伸矢氏のご教示による。

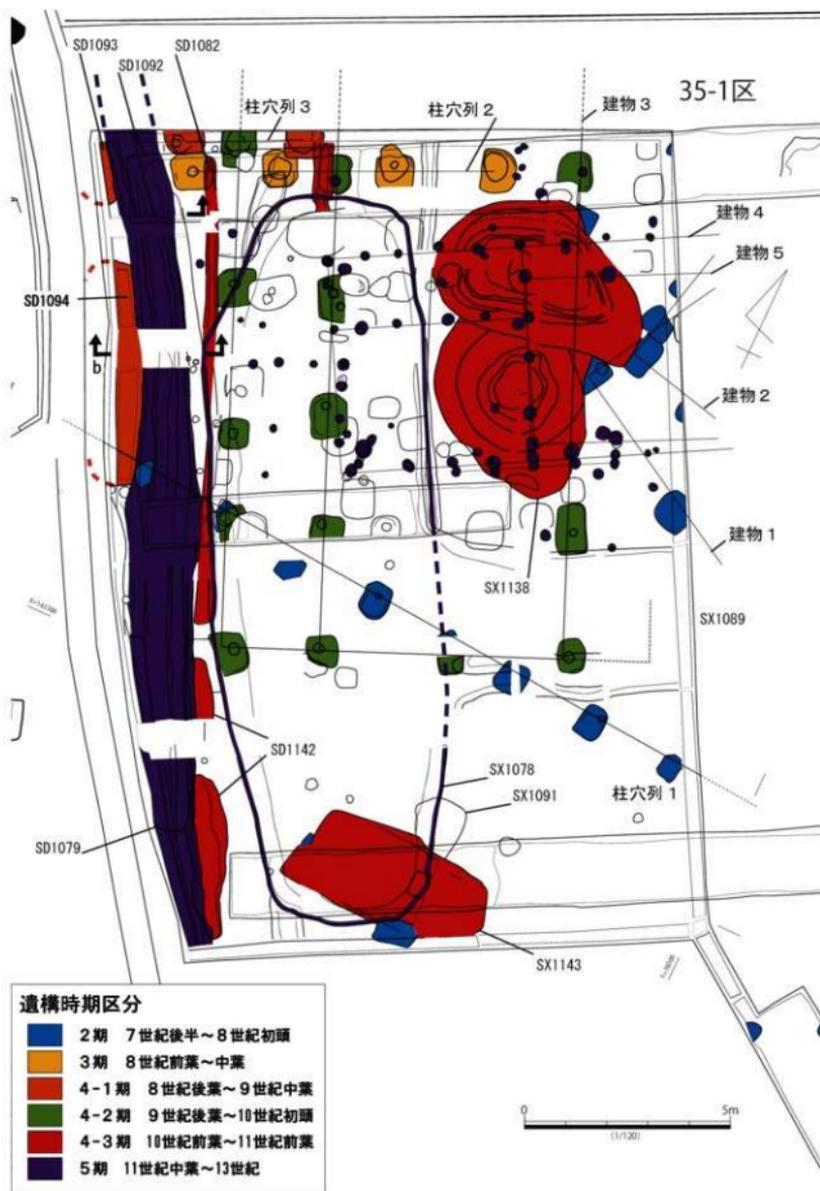
(※2) 九州歴史資料館2014「東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告13 福原長者原遺跡第3次調査」

(※3) 当該期の水利体系はほぼ現水利と同じであったと考えられ、約2km南東にある四手池から延びる水路(四手池用水)が近世初頭に開削されたと考えられる。また、それ以前の水源は南谷を堰き止めた開法寺池であった可能性が高く、想定する開法寺跡の廃絶時期との矛盾もない。

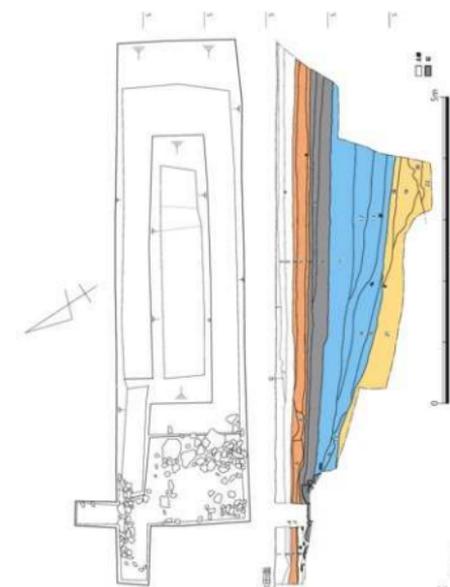
(※4) 高橋学1995「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院



第 12 図 調査位置図



第13図 35-1区遺構配置図



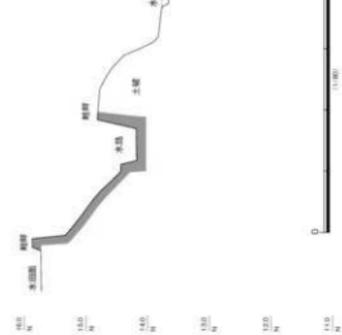
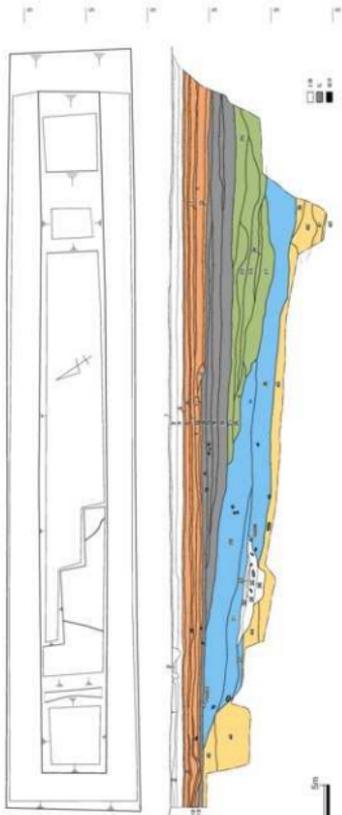
- 35-2区
- 1 遺成土 花崗土、近現代、上部の埋没物は未確認
 - 2 埋没土 10765/1 褐色粘質土
 - 3 床土 10766/4 粘質土
 - 4 埋没物土 10765/2 灰黄色粘質土
 - 5 埋没土 10765/3 粘質土
 - 6 Mo 沈積層 (8層 上部)
 - 7 遺成土 10764/2 灰黄色粘質土、10765/1 褐色粘質土ブロックをまばらに少量含む、浸透層部含む (14~15世紀)
 - 8 埋没層 2574/2 褐色粘質土、こまじり以下の円礫を多く含む
 - 9 埋没層 10764/4 灰色・黄褐色粘質土、10764/1 褐色粘質土のラミナ塊

階層	名称	土質の特徴	出土遺物	形成時期
A層	遺成層	砂質土 埋没土 埋没物土	織文土器、サステイト片、石礫	縄文時代前期
B層	沼澤土	湖沼堆積質土 シルト・細砂・粗砂等多様 層付傾斜方向・角状等多様	遺物未確認→家畜糞調査	(11世紀頃)
C層	遺成土 (埋没地)	褐色におよぶ黄褐色粘質土 灰色・黄褐色粘質土ブロック包含	古代の土器・瓦器 最新土器：足置	14~15世紀
D層	遺成土	埋没土 埋没物土	遺物未確認	-
E層	(埋没地)	黄褐色粘質シルト→灰黄色粘質土	古代の土器・瓦器 (一定量)	15~16世紀
F層	水田層	床土・粘質土の連続 黄土層	近世初期の肥田土陶器 作用の層下部出土	近世

B層：高橋宇氏の研究成果→11世紀頃の河床底下に伴う大規模な排水→段丘面形成→完世中段丘上面
 C層：段丘上面の埋没→遺成(土層・瓦器包含)も大規模な排水あり→完世中段丘上面
 C層・D層：上面の埋没を伴ったものと思われるため、埋没土ブロックは、上位面に所在)
 F層：埋没層に要する大規模な開削(西岸側埋没水の取除)

- 35-3区
- 1 埋没物土
 - 2 遺成土 (後土上)
 - 3 埋没物土
 - 4 埋没物土
 - 5 埋没物土
 - 6 埋没物土
 - 7 埋没物土
 - 8 埋没物土
 - 9 埋没物土
 - 10 埋没物土
 - 11 埋没物土
 - 12 埋没物土
 - 13 埋没物土
 - 14 埋没物土
 - 15 埋没物土
 - 16 埋没物土
 - 17 埋没物土
 - 18 埋没物土
 - 19 埋没物土
 - 20 埋没物土
 - 21 埋没物土
 - 22 埋没物土

第14図 35-2・3区平・断面図



35-5B 26 遺跡土 2,955-2 黄褐色粘板土、1.0m以下の内層をわずかに含む
27 遺跡土 2,977-1 黄褐色粘板土、1.0m以下の内層をわずかに含む
28 1079A-2 黄褐色粘板土、10795-1 褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む。土層、互層多く含む
29 7,979A-2 黄褐色粘板土、10796-4 におよぶ黄褐色、2,974-1 黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む。土層、互層多く含む
30 7,979B-2 黄褐色粘板土、10796-4 におよぶ黄褐色、2,974-1 黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む。土層、互層多く含む
31 7,979A-3 褐色粘板土、10795-4 におよぶ黄褐色、2,974-1 黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む。土層、互層多く含む
32 10796-3 におよぶ黄褐色粘板土、10796-4 におよぶ黄褐色、2,974-1 黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む。土層、互層多く含む
33 7,979B-2 黄褐色粘板土、相互に重複する
34 7,979-1 黄褐色粘板土、相互に重複する
35 1079B-2 黄褐色粘板土、相互に重複する
36 7,979B-3 におよぶ黄褐色粘板土、10796-3 におよぶ黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む
37 7,979B-3 におよぶ黄褐色粘板土、10796-3 におよぶ黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む
38 7,979A-2 黄褐色粘板土、7,979B-1 黄褐色、10796-3 におよぶ黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む。土層、互層多く含む
39 2,975-1 黄褐色粘板土、こまごまに土層を多く含む、1079A-2 黄褐色粘板土をまばらに多く含む
40 10795-1 褐色粘板土
41 7,979-1 黄褐色粘板土
42 7,979-3 黄褐色粘板土、粘付を含まない
43 10795-3 黄褐色粘板土、こまごまに土層を多く含む
44 粘板土、2,975-2 黄褐色粘板土、こまごまに土層を多く含む。粘付を多く含む
45 黄褐色粘板土、10795-2 粘板土、こまごまに土層を多く含む

35-5A 1 遺跡内土 10797-6 黄褐色粘板土、7,979B-5 黄褐色粘板土
2 遺跡土 10797-2 黄褐色粘板土、こまごまに土層を多く含む
3 遺跡土 10797-3 黄褐色粘板土、こまごまに土層を多く含む
4 遺跡土 10797-4 におよぶ黄褐色粘板土
5 遺跡内土 10795-1 褐色粘板土
6 遺跡内土 10795-2 におよぶ黄褐色粘板土
7 遺跡内土 2,975-1 黄褐色粘板土
8 遺跡内土 10795-3 におよぶ黄褐色粘板土
9 10796-1 褐色粘板土
10 2,975-1 褐色粘板土、10796-5 黄褐色粘板土、10796-3 におよぶ黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む
11 10797-2 におよぶ黄褐色粘板土、粘付
12 粘板土 10796-4 におよぶ黄褐色粘板土
13 粘板土 7,979B-4 におよぶ黄褐色粘板土
14 粘板土 10796-5 におよぶ黄褐色粘板土、粘付を多く含む
15 粘板土 10796-5 におよぶ黄褐色粘板土、粘付を多く含む
16 10796-5 黄褐色粘板土、粘付を多く含む
17 2,975-2 黄褐色粘板土、粘付を多く含む
18 2,975-2 黄褐色粘板土、粘付を多く含む
19 7,979B-3 におよぶ黄褐色粘板土
20 遺跡土 10796-3 におよぶ黄褐色粘板土、2.0m以下の内層を多く含む
21 遺跡土 2,975-1 黄褐色粘板土、2,976-2 黄褐色粘板土ブロックをまばらに多く含む
22 遺跡土 2,975-3 黄褐色粘板土、粘付を含まない
23 遺跡土 2,975-2 黄褐色粘板土、こまごまに土層を多く含む
24 遺跡土 2,975-2 黄褐色粘板土

名称	作務	町土の特徴	出土遺物	形成時期
A層	砂質土	粘板土	簡文土器、ササコト片、石蓋	縄文時代前期
B層	沼澤粘板土	沼澤粘板土	遺物未確認	(11世紀頃)
C層	沼澤土	沼澤土	遺物未確認	14-15世紀
D層	沼澤土	沼澤土	遺物未確認	-
E層	遺跡土	黄褐色粘板土	古代の土器、瓦器(一定量)	15-16世紀
F層	水田層	砂状黄褐色粘板土	遺跡初期の足跡	近世

第15図 35-5区・断面図

断面：高橋孝弘の調査(東-1) 1世紀頃の河床底下に約4大規模な溝水一段に形成二定規階段を呈す
C層：粘土を主体とする一連の(土層、瓦やブロックは存在せず、土層に所在)
C層-1層、土層が封付を受けたような乱れあり=水田層(牛馬糞の堆積から一畝成の目的は耕種化)
F層：稲藁等に繋がる大規模な溝後(四手溝層の水田の建設)

第15図 35-5区・断面図



写真 19 35-1 区全景（北より） 奥が開法寺地区、手前の不整形遺構が鍛冶関連遺構



写真 20 35-1 区全景（北東より） 右側（北）には条里方向の遺構を多く認めるが、左側には条里方向の遺構はない



写真 21 正方位主軸の柵列 (東より)



写真 22 正方位主軸の柵列と廃棄土坑 (SX1143)
(南東より)



写真 23 開法寺東方地区と開法寺地区 (北西より)



写真 24 西辺の溝群 (北西より)



写真 25 建物 4・5 (13世紀前葉ごろ) (北西より)



写真 26 超大形廃棄土坑 (SX1078) ほか検出状況
(南東より)



写真 27 超大形廃棄土坑 (SX1078) ほか検出状況
(北より)



写真28 鍛冶関連遺構 (SX1138) 全景 (東より)



写真29 鍛冶関連遺構 (SX1138北) 断面 (東より)



写真30 鍛冶関連遺構 (SX1138) 出土遺物



写真31 35-3区全景 (南より)



写真32 35-5区全景 (北より)

香川県埋蔵文化財センター年報

平成 29 年度

平成 30 年 12 月 21 日 発行

編集・発行 香川県埋蔵文化財センター
〒 762-0024
香川県坂出市府中町南谷 5001 番地 4
電 話 (0877) 48-2191
FAX (0877) 48-3249

印 刷 ワールド印刷株式会社